

令和4年度 第2回瑞穂町協働のまちづくり推進委員会

- 1 日 時 令和4年12月26日（月曜日） 19時から20時5分まで
- 2 場 所 庁舎2階会議室2-1、2-2
- 3 出席者 （委員）
中沢清（委員長）、豆田和子（副委員長）、石川かず子、高水弘侑、田中幸男、小松揚明（オンライン）、
（事務局）
吉岡大輔（協働推進部協働推進課長）、栗原康弘（同課地域協働係長）、
岡部龍斗（同課地域施設係主任）
（欠席者）
石川淳、井上祐輔
- 4 配付資料 （1） 次第
（2） 瑞穂町協働の窓口イメージ図（仮）
（3） 「瑞穂町協働の窓口ー地域と町のみずほマッチングー（仮）」
（ホームページ）
（4） 瑞穂町協働の窓口ー地域と町のみずほマッチングー（仮）」
提案フォーム（L o G oフォーム（W e b用））
（5） 防災意識の向上で命を守ろうー瑞穂中学校P T Aと町との協働
事業ー（ホームページ）
（6） 令和5年度「地方公務員等研修支援事業」の募集について
（7） 「地域づくりと協働についての講演会」の応募について
- 5 開 会 委員長より開会宣言
（事務局地域協働係長）配付資料の確認
- 6 あいさつ 吉岡協働推進課長挨拶
- 7 議題 （1）事務局からの報告について
（事務局協働推進課長）
資料1について、瑞穂町協働の窓口イメージ図（仮）説明。令和4年4月から協働推進課が立ち上がったが、未だに協働の相談窓口が住民、関係機関及び庁内にも分かりにくい状況となっているため、今後、協働の相談窓口を分かりやすくしていく。
仮称ではあるが、町とのマッチングをかけて、みずほマッチングという親しみやすく、分かりやすい名称を付けた。
教育委員会の教育部社会教育課が所管している生涯学習推進団体として様々な支援を

受け、住民提案型協働事業費という扱いで補助を受けているが、協働推進課が行う協働事業提案とは、今後、差別化を図っていくためにも協働の相談窓口を明確にしていく。

今後、協働推進課はボランティアセンターみずほとの連携が特に重要で、より深い連携を取っていかなければならない。

町と協働してく方（団体）を協働パートナーと位置付ける。

（事務局地域協働係長）

資料2「瑞穂町協働の窓口ー地域と町のみずほマッチングー（仮）」（ホームページ）及び資料3「瑞穂町協働の窓口ー地域と町のみずほマッチングー（仮）」提案フォーム（LOGOフォーム（Web用））について説明。現在、協働事業の募集を町ホームページ、広報みずほの4月号と10月号の年2回行っている。現状として、数件の問い合わせのみで、事業採択まで至ったのは、瑞穂中学校PTAと町との協働事業のみとなっている。

町をより良くするための活動団体等から簡単に提案できるようフォームを作成し、町ホームページにアップする。提案フォームは、QRコードから簡単に提案できる体制を整えた。提案された内容を協働推進課で確認し、その団体と対等の立場で、進めていくような事業について協議を進め、各課と連携を図り、協働事業ガイドラインに沿って、採択していく。

各課が抱える課題等についても、行政提案という形でテーマ募集を検討してく。

LOGOフォームの運用については、令和5年4月から開始する予定に伴い、瑞穂町協働事業ガイドラインもマイナーチェンジを実施する。事務局で案を作成し、委員会でも内容を検討した後、更新する予定である。

（事務局協働推進課長）

LOGOフォームからの提案は、役場内でも初めての取組となる。コロナ禍で、対面でのやり取りが難しい中、協働の窓口相談を広めていく基礎固めのため、情報収集等を行い、試行錯誤していく。

（事務局地域協働係長）

資料4「防災意識の向上で命を守ろう」ー瑞穂中学校PTAと町との協働事業ー（ホームページ）について説明。瑞穂中学校PTAと町との協働事業を実施した際の様子をホームページに掲載した。

こちらの様子は瑞穂町公式ユーチューブチャンネルで映像が視聴可能。みずほケーブルテレビの協力を得て、見やすい動画となっている。

（事務局協働推進課長）

町側の発想だけでなく、地域の方からの発想を実現できた良い事例の1つであると考えている。

(事務局地域協働係長)

資料5-1 令和5年度「地方公務員等研修支援事業」の募集について及び5-2「地域づくりと協働についての講演会」の応募についての説明。一般財団法人自治研修協会の募集案内に地域づくりと協働についてというテーマの講演会があり、応募し、内定通知をもらった。令和5年度の事業として、進めていきたい。協働のまちづくり推進委員会、町内会・自治会、町職員も絡めていく。開催時期は令和5年7月から12月までの間で、場所はけやき館のホールやスカイホール小ホールを予定している。

議題(2) 各委員からの報告について

(中沢委員長)

ボランティアセンターみずほと協働は絶対やるべき。既に、協働の形となっているものもある。

(高水委員)

事前に協働推進課長と地域協働係長と何が連携できるか相談を受けた。ボランティアセンターみずほの事業として、ちょいボラを実施しているが、町職員も私としては地域資源として考えているため、声を掛けさせてもらっている。今後、いい形になると良いと考えている。

(小松委員)

昨年瑞穂町の総合型地域スポーツクラブ笑夢スポーツクラブのクラブマネージャーとして活動している。本来、スポーツ活動ではあるが、地域スポーツクラブなので、地域に関することに関わっていくべきと考えている。スポーツを通してその繋がりというのを作っていくのが総合型地域スポーツクラブ、そのマンパワーを協働に活用したい。

(田中委員)

窓口が一本化された。町職員の中でも協働の意識が生まれるのではないかと。

(中沢委員長)

みずほマッチングというネーミングがあるのは良い。みずほまるをもっと活用できると良い。LOGOフォームに記入例があると良い。

(豆田副委員長)

過去の提案書が見られるようになっているか。過去の事例が見られると良い。

(事務局地域協働係長)

ホームページのアップデートは、随時、行っていく。

(中沢委員長)

瑞穂中学校PTAとの協働事業は、瑞穂中学校PTA浜崎会長からもどんどん広げてほしいと言われている。この事業は、瑞穂中学校PTAから提案があったのか。

(事務局協働推進課長)

瑞穂中学校PTAから提案があった。そこに、協働推進課が肉付けしていったような形で事業実施した。

(中沢委員長)

学校が関わりと良い。保護者がもっと入りやすくなる。

(事務局地域協働係長)

資料5-1、5-2について、来年度、皆さんと調整していきたい。

(石川委員)

近年、協働って何ってことを取り組んできた。ここで協働推進課となり、メンバーも新しくなり、新しい風が入ってくることは大事だと思う。

(豆田副委員長)

コロナで外出していない。ZOOMでヒッポの活動は継続して行っている。

(小松委員)

部活動の民間委託が令和5年度から始まる。基本は、地域のスポーツクラブ受けていくような方向性がある。学校を含めた上でのマッチングというようなニュアンスでやっていくことになる。

(田中委員)

若い人たちがなかなか乗ってこない。やり手がない。どうしたらよいか苦慮している現状がある。

団体を組織する段階にまでいけない。役員等の話が出ると、難しくなってしまう。

(中沢委員長)

田中委員のアイデアをうまく実現できるようになると良い。

(事務局協働推進課長)

協働の窓口にはまずは、相談してもらう体制を構築することで色々情報が集まる。一例として、ボランティアセンターみずほで行われたフードリレーを見学してきた。今後は、スマートフォンの活用をはじめ、オンラインの活用をしていかなければならない。

(中沢委員長)

今後は、コーディネーターが必要になってくる。やはり、ボランティアセンターみずほと連携が重要になってくる。

(高水委員)

瑞穂町社会福祉協議会として、人と人をつなぐ、企業と人をつなぐということも大事な事業の一環である。その一例が、先日実施したフードリレーである。

議題(3) その他について

(事務局地域協働係長)

コロナ禍のため、本年もフォーラムの開催は難しい。そのため、令和5年3月中旬以降にパネル展を実施する。町内会連合会、男女共同事業及び平和事業を合わせたパネル展を実施する。

令和5年3月31日で任期満了のため、公募委員の募集をする。

次回、会議日程の調整。次回委員会は、令和5年3月20日19時からを予定

8 閉会 豆田副委員長による閉会宣言